



今、子どもたちの周りは、刺激であふれています。テレビ、マンガ、雑誌、インターネット。私たち親が、子どものころでは考えられないほどの多様さと情報量です。その刺激が、子どもたちの成長に多大な影響を及ぼしていることは想像に難しくありません。容易に情報を手に入れたり、刺激や感動を享受できたりする反面、その安易さの陰で大切なものを失っているのではないのでしょうか。その一つが五感です。人は、音、光、匂い、味、感触など外からさまざまな刺激に反応していますが、どうしても弱い刺激より強い刺激に反応してしまいます。しかし、強い刺激ばかりが増えてしまうと、小さな音、微かな光、ほのかな香りなど弱い刺激には反応を示さなくなってしまうのです。それが五感の特徴です。子どもたちは、テレビなどの強烈な刺激と安易さ、そして感覚の代わりをしてくれるセンサー技術に囲まれて生活しています。そんな中で、五感を使う経験を十分に積まないまま大人になっているのではないのでしょうか。そこには、不安を感じます。例えば、生鮮食品の新鮮さの判別

が下手になったり、ガス漏れに気づかなかったり、わずかな身体の変調に気づかなかったりと、経験不足は命に関わります。また、力のあるものだけに五感に反応し、小さく弱い刺激に心が向かなくなる恐れが出てきます。これでは、自分の興味あることや強く激しい(悪い?)ものには集中するがそうでないものには気持ちが向けられず、親や教師の言葉や思いも伝わりにくくなります。叱る親の声は大きくきつくなる一方です。さらに、ほのかで小さなもの、弱い光、弱い生命に心が向かなくなったら、ともに生きる生活はどうなるのでしょうか。力と力がぶつかり合い、競争が弱い生命の存在をはじき出してしまうのでしょうか。お互いの見えない心を見つめ合う優しさや心配りの生活は、現代生活にはなじまないとして軽視されていくのでしょうか。子どもの五感の経験の少なさに危機感を感じ、早くから警鐘を鳴らしている寺内定夫先生によると、特に不足している生活経験は、次の4つだそうです。①手仕事や修理の生活②夜空を見上げる生活③夢を描く生活④小さな冒険や探検の生活。これらを子どもたちに取り戻させてやれるのは、われわれ大人です。もう一度テレビやゲーム、ケータイ、パソコンなどにどう関わらせていったらいいのか見つめ直してみてください。そして、子どもとさまざまな事象との出会いが、五感を働かせる経験となるように、大人が寄り添い、感動を共有していくことが大切ではないのでしょうか。

伝言板

臓器提供意思表示カード

私たちの周りには、心臓、肺、腎臓などの機能が低下し、いま生命の危険に脅かされている人がいます。その命を守ることができるのは、唯一「臓器の移植」です。臓器の移植には、「もしも自分が死んでも誰かの命を救いたい、自分の臓器を役立てたい」というあなたの善意が必要です。

このようなお気持ちがありましたら「臓器提供意思表示カード」を持ち歩いてください。その際には必ずご家族にも臓器を提供したいという気持ちを伝えてください。

意思表示カードは、保健所、市役所、郵便局、コンビニエンスストアなどに置いてあります。

意思表示カードの配布

10月の臓器移植普及月間に合わせて次の場所でも配布します。

日時 10月4日(日)
午後1時20分～2時20分
場所 オギノ河口湖店
おかじま都留食品館

問合先

地域保健課
0555(24)9035

看護師等再就業相談

結婚、出産、育児、介護などによって職場を離れた看護師などの皆様、今はどうしていますか。あなたの再就業が期待されています。

看護師などの仕事は、医療の進歩や介護需要の増大などにより、就職が厳しい昨今であっても、高い求人率です。また、離職してからの期間が空いていることにより不安を抱えている方には、病院における最新の看護業務の習得と職場復帰をサポートするための実務研修に参加していただく機会もあります。

さらに、県内の求人情報も提供していますので、自分に合った職場を選ぶことができます。これまでの経験を生かして再チャレンジしてください。

保健所では再就業のための相談窓口を開いています。

対象 保健師、助産師、看護師、准

看護師の免許所有の方

その他 個人情報厳守します。
問合先

健康支援課
0555(24)9034